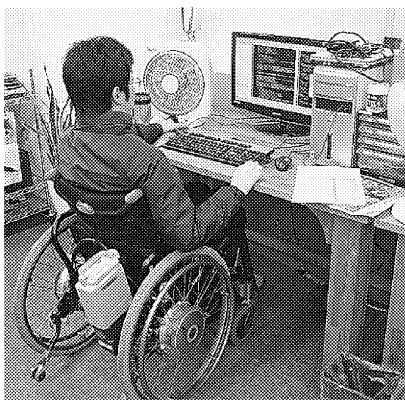


奥進システム

奥進システム（大阪市、奥協学社長）はインターネットを使った顧客管理や、注文の受発注管理などを支援するシステム開発を手がける。従業員数はわずか7人と少ないが、うち5人が障害者だ。車椅子を使う社員には週2日の在宅勤務を認めているほか、個人の事情に応じて時短勤務などの選択肢も用意。「時間と場所に縛られない働き方を追求した」と奥協社長は話す。

顧客ニーズに合わせてオンラインゲームするのが強み。仕様書だけで開発を進めず、顧客へのヒアリングを実施。サンプル画面を見ながらシステムのイメージをつかんでもらう。ニーズに合ったものに仕上げられるので、システムを作り直す費用を抑えられる。

主要顧客は中小企業だが、障害者支援施設からの受注が伸び、売り上げが拡大している。2006年から障害者の雇い入れを始めたが、それに



車椅子が入るよう台を高くした事務所の作業机

自由な時間・場所で開発

■本社 大阪市
■従業員数 7人
■創業 1999年
■売上高 4200万円
(2012年3月期)

《会社概要》

伴い福祉施設との関係が強まり、システム開発の案件を受けるケースが増えたためだ。システムの外販も始める。

福祉施設向けの業務支援システム「うえるサポ」で、入所者情報や入所時に必要な手続きなどをネット上で行えるようにしたものだ。同様に外販する「SPIS」は、12年に開発した精神障害者向けの就業支援システムで、外部には分かりにくい精神疾患者の心理状態をグラフで表すのが特徴。事前に定めた質問への回答内容で障害者の精神状態を把握し、管理する。すでに障害者を雇用する大手メーカーへの採用が決まったという。

奥協社長は大手ソフトウェア開発会社の出身。長時間の残業や単身赴任を経験し、「ネット環境を活用すれば自分の好きな時間、場所で仕事ができる。働き手にとって優しい職場を作りたい」と考え、起業した。在宅勤務を可能にするため、自宅と会社を専用のネット回線で接続。会議の議事録やプロジェクトの進行状況など、業務上重要な情報も社内で共有化している。

|| 随時掲載